

特 殊 健 康 診 断

動 向

1. オルトトルイジンが新たに特殊健康診断の対象となった。(平成29年1月1日施行)

オルトトルイジン作業に常時従事する労働者に対し、雇入れまたはこの業務への配置替えの際およびその後6か月以内ごとに1回、定期的に健康診断を実施。また、過去にオルトトルイジン作業に常時従事させたことがあり、配置転換して現在も雇用している労働者についても同様に健康診断を実施。

〈一次健康診断〉 ①業務の経歴の調査 ②作業条件の簡易な調査 ③オルトトルイジンによる頭重、頭痛、めまい、疲労感、倦怠感、顔面蒼白、チアノーゼ、心悸亢進、尿の着色、血尿、頻尿、排尿痛等の他覚症状または自覚症状の既往歴の有無の検査④頭重、頭痛、めまい、疲労感、倦怠感、顔面蒼白、チアノーゼ、心悸亢進、尿の着色、血尿、頻尿、排尿痛等の他覚症状または自覚症状の有無の検査⑤尿中の潜血検査(医師が必要と認める場合に実施する検査)⑥尿中のオルトトルイジンの量の検査(業務従事労働者のみが対象)⑦尿沈渣検鏡、尿沈渣のパパニコラ法による細胞診の検査。

〈二次健康診断〉 ①作業条件の調査(業務従事労働者のみ)(医師が必要と認める場合に実施する検査)②膀胱鏡検査、腹部の超音波による検査、尿路造影検査等の画像検査③赤血球数、網状赤血球数、メトヘモグロビンの量等の赤血球系の血液検査(業務従事労働者のみ)

2. 3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン(MOCA)の特殊健康診断の検査項目に、膀胱がんなどを予防・早期発見するための項目が追加。(平成29年4月1日施行)

これまでは、呼吸器の障害(腫瘍等)、消化器の障害、腎臓の障害等を予防・早期発見するための検査項目を規定していたが、膀胱がん等の尿路系の障害(腫瘍等)を予防・早期発見するための項目を追加した。配置転換後労働者に対する健康診断は、がん等の遅発性の健康障害を予防・早期発見するために行うものであることから、業務従事労働者と配置転換後労働者とで検査項目に差異を設けた。

〈一次健康診断〉 ①業務の経歴の調査(業務従事者のみ)②作業条件の簡易な調査(業務従事者のみ)③MOCAによる：上腹部の異常感、倦怠感、せき、たん、胸痛、血尿、頻尿、排尿痛等④他覚症状または自覚症状の有無の検査⑤尿中の潜血検査(医師が必要と認める場合に行う検査項目)⑥尿中のMOCAの量の測定(業務従事者のみ)⑦尿沈渣検鏡の検査⑧尿沈渣のパパニコラ法による細胞診の検査⑨肝機能検査⑩腎機能検査。

〈二次健康診断〉(医師が必要と認める場合に実施)〈必須項目〉①作業条件の調査(業務従事労働者の健康診断に限る)(医師が必要と認める場合に

行う検査)②膀胱鏡検査③腹部の超音波による検査、尿路造影検査等の画像検査④胸部のエックス線直接撮影若しくは特殊なエックス線撮影による検査⑤喀痰の細胞診⑥気管支鏡検査。

3. 三酸化二アンチモンが新たに特殊健康診断の対象となった。(平成29年6月1日施行)

三酸化二アンチモン作業に常時従事する労働者に対し、雇入れまたはこの業務への配置替えの際およびその後6か月以内ごとに1回、定期的に、規定の項目について健康診断を実施。過去に三酸化二アンチモン作業に常時従事させたことがあり、配置転換して現在も雇用している労働者についても同様に健康診断を実施。

〈一次健康診断〉 ①業務の経歴の調査②作業条件の簡易な調査(①、②については業務従事者が対象、必要に応じ配置転換後労働者も対象)③三酸化二アンチモンによるせき、たん、頭痛、嘔吐、腹痛、下痢、アンチモン皮疹等の皮膚症状等の他覚症状または自覚症状の既往歴の有無の検査④せき、たん、頭痛、嘔吐、腹痛、下痢、アンチモン皮疹等の皮膚症状等の他覚症状または自覚症状の有無の検査(急性の疾患に関する症状(下線部)については、業務従事労働者に対する健診のみ)(医師が必要と認める場合に行う検査)⑤尿中のアンチモンの量の測定(業務従事労働者のみが対象)⑥心電図検査

〈二次健康診断の項目〉 ①作業条件の調査(業務従事労働者のみが対象)(医師が必要と認める場合に行う検査)②胸部エックス線直接撮影または特殊なエックス線撮影による検査③喀痰の細胞診④気管支鏡検査

現 状

前年に比較して特殊健康診断の受診団体数は374団体とほぼ横ばい。また、受診者数は82,197名から79,371名へと2,826名減少(3.4%減少)している。

受診者が増加したのは、じん肺94名増加(2,594→2,688)電離放射線88名増加(6,639→6,727)

受診者数が減少したのは、特定化学物質855名減少(15,904→15,049)有機溶剤404名減少(18,626→18,222)行政指導によるもの1,098名減少(28,295→27,197)石綿549名減少(3,008→2,459)鉛42名減少(754→712)高気圧46名減少(344→298)その他14名減少(6,033→6,019)

特殊健康診断の結果については例年と大きな変化はみられない。生物学的モニタリングとされる血中鉛や尿中代謝物等の検査結果も、例年と大きな変化はないが、有機溶剤では分布2、分布3を示す受診者が19,538名中265名(1.4%)みられ、そのほとんどがトルエンの代謝物である馬尿酸であった。

関係の集計表は128頁に掲載